

東北海区沿岸水温予報（2020年）

海域	経過 (9～11月)	現況(11月上旬～ 12月上旬)	見通し (12月～2月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸； 青森水総研発表)	<p>・定地水温：9月は平年並み～やや高め、10月は平年並み、11月はやや低め～平年並みで推移した。</p> <p>・9月の海洋観測の結果、津軽暖流域の0m層最高水温は極めて高め、50m層、100m層でやや高めであった。また、津軽暖流の水塊深度および東方への張り出しは平年並みであった。</p>	<p>・定地水温：11月中旬以降、平年並みで推移している。</p> <p>・12月の海洋観測の結果、津軽暖流域の0m層、50m層、100m層の最高水温は、各層ともやや高めであった。また、津軽暖流の水塊深度はかなり深め、東方への張り出しははなはだ東偏であった。</p>	<p>・津軽暖流域の水温は平年並～やや低めで推移する。</p>	<p>・日本海の12月分観測の結果、対馬暖流域の0m層、50m層、100m層の最高水温は全層ともやや高めであったものの、太平洋および我が国周辺の海況予測FRA-ROMSによると、今後は平年並み～低めと予測されている。</p>	<p>特になし</p>
三陸中部 (岩手県沿岸； 岩手水セ発表)	<p>9月【9/9～9/12】 《表面水温》 10海里以内は22～23℃台であり、全域でやや高めであった。 10海里以遠は、県北部沖から県南部沖の20～30海里でやや高め～高めであった。 《100m深水温》 10海里以内は、県北部沖から県中部沖でやや低め～極めて低めであった。 10海里以遠は沖合域に行くにつれて高めとなっており、県中部沖から県南部沖50海里以遠ではやや高めであった。 10月【9/29～10/2】 《表面水温》 10海里以内は、18～20℃台であり、県北部及び県南部沖5～10海里でやや高めであったほかは平年並みであった。 10海里以遠は、県中部沖から県南部沖の10～50海里で平年並み～やや高めであった。 《100m深水温》 10海里以内は、県北部沖から県中部沖でやや低め～極めて低めであった。 10海里以遠は、県北部沖でやや低め、県中部沖から県南部沖で平年並み～高めであった。 11月【11/13～11/18】 《表面水温》 10海里以内は13～15℃台であり、全域で平年並み～やや低めであった。 10海里以遠では、全域でやや低め～低めであった。 《100m深水温》 10海里以内は、県北部沖で平年並み～やや高めであったほかは平年並み～極めて低めであった。 10海里以遠は、全域でやや低め～極めて低めであった。</p>	<p>12月【11/30～12/3】 《表面水温》 10海里以内は11～13℃台であり、全域で平年並み～やや低めであった。 10海里以遠は、全域で平年並み～低めであった。 《100m深水温》 10海里以内は、全域で平年並み～やや低めであった。 10海里以遠は、県北部沖で平年並み～極めて低め、県中部沖から県南部沖では平年並み～低めであった。</p>	<p>予測される1月の水温は、100m深、各0海里定点の10m深ともに平年並み。</p>	<p>農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した、水温経験的予測システムを用いて解析した。</p>	<p>スルメイカの水揚げが好調。 3月から11月下旬の累計水揚量及び前年比並びに過去5年平均比は、定置網で306t、前年比2.5倍、過去5年平均比1.2倍。イカ釣り漁業では897tで前年比2.6倍、過去5年平均比1.2倍となっている。</p>
三陸南部 (宮城県沿岸； 宮城水セ発表)	<p>(9月)表面水温は仙台湾内で2～4℃高め、牡鹿半島以東の沿岸で1～2℃高め。100m水温は1℃低め。 (10月)表面水温は仙台湾内で2℃高め、湾外で平年並。100mは38°Nに冷水が波及し2℃低め。 (11月)表面水温は仙台湾内で1℃高め、湾外で平年並～1℃低め。100m水温は142°E以東に冷水が波及し最大4℃低め。</p>	<p>(表層水温) 仙台湾で平年並み、142°E以東で1～2℃低め。 (100m水温) 142°E以東で最大5℃低め。</p>	<p>(100m) 142°E以東に冷水があり、1～4℃低め。</p>	<p>FRA-ROMSによる。</p>	
常磐北部 (福島県沿岸； 福島水セ発表)	<p>100m深 【9月】 県北沿岸は「平年並み」、沖合は欠測 県中沿岸は「平年並み」、沖合は欠測 県南沿岸は「やや低め」、沖合は欠測 【10月】 県北沿岸は「平年並み」、沖合は欠測 県中沿岸は「高め」、沖合は欠測 県南沿岸は「高め」、沖合は欠測 【11月】 県北沿岸は「やや低め」、沖合は欠測</p>	<p>100m深水温 【12月上旬】 県北沿岸は「低め」 沖合は欠測 県中沿岸は「低め」 沖合は欠測 県南沿岸は「やや低め」 沖合は欠測</p>	<p>【12月】 「平年並み」もしくは、「やや低め」で推移する。 【1月】 「平年並み」、もしくは「やや低め」で推移する。 【2月】 「平年並み」、もしくは「低め」で推移する。</p>	<p>気象庁の海面水温・海流1ヶ月予報(12月10日発表)によると、1月10日までの本州東方の海面水温は「平年より高い」か「かなり高い」見込みであり、親潮は「南限位置は148°E以東」になり、「面積は、平年より小さいかかなり小さい」と予測されている。 また、FRA-ROMS発表の2020年12月～1月にかけての100m深水温によると、12月の</p>	

	<p>県中沿岸は「低め」、沖合は欠測 県南沿岸は「平年並み」、沖合は欠測</p> <p>※県北：37° 50'N、県中：37° 25'N、 県南：37° 00'N、 沿岸：142° 00'E以西、 沖合：142° 15'E以東</p>			<p>福島県海域の水温は平年並みか平年より1～2℃低めとなり、2月上旬でも黒潮系暖水の波及は弱まるため、この傾向は続くと思われる。</p> <p>以上のことから、12月～2月にかけて「平年並み」もしくは「やや低め」で推移すると予測した。</p>	
<p>常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸； 茨城水試発表)</p>	<p>9月：50m以浅での昇温傾向が目立ち、表層は広い範囲で「やや高め」となった。50m以深の沿岸では「やや低め～平年並」、沖合では黒潮の影響により「高め～極めて高め」となった。</p> <p>10月：表層では広く降温したものの、「平年並～やや高め」となった。50m以深では北部を中心に大きく昇温し、「平年並～高め」となった。平年より「高め」となった地点は北部を中心に見られた。</p> <p>11月：表層では「やや低め～やや高め」で、50m以深では「低め～高め」となった。冷水が南下した北部と黒潮系暖水が接岸した南部沖合を除くと、表層で「やや高め」、50m以深では「平年並～やや高め」となった。</p>	<p>北部から冷水が南下したことにより50m以深では南部沖合を除いて降温した。一方で黒潮が接岸傾向で推移した影響で南部沖合では昇温傾向となった。表層では「やや低め～やや高め」で、50m以深では「低め～高め」となった。冷水が南下した北部と黒潮系暖水が接岸した南部沖合を除くと、表層で「やや高め」、50m以深では「平年並～やや高め」となった。</p>	<p>「平年並～やや高め」で推移する見通し。</p>	<p>①FRA-ROMSによると、沿岸域の水温は、12月下旬～1月下旬にかけて表層で「やや低め～平年並」、100m深で「平年並」で推移するとの予測だった。</p> <p>②11月上旬に海洋観測で取得した水温を用いて自己回帰分析を実施した結果、1～3か月後の水温は「平年並」で推移するとの予測となった。</p> <p>③気象庁の1か月予報(12/10発表)によると、向こう1か月の本州東方の海面水温は、「平年より高い」か「平年よりかなり高い」との見通しである。</p> <p>③以上より、今後の水温は、「平年並～やや高め」で推移すると予測した。</p>	<p>7月～8月にかけて、水産試験場で計測している那珂湊定地水温の月平均が、過去5年で最も低かった。</p>

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘	
		距岸10海里内	距岸10～70海里				
極めて高い(2.5%)	+3.1℃～	+3.7℃～	+5.8℃～	+5.7℃～	+4.8℃～	+6.1℃～	
高い(7.5%)	+2.0～+3.0℃	+2.4～+3.6℃	+3.8～+5.7℃	+3.7～+5.6℃	+3.1～+4.7℃	+4.0～+6.0℃	
やや高い(20%)	+0.8～+1.9℃	+1.0～+2.3℃	+1.5～+3.7℃	+1.5～+3.6℃	+1.2～+3.0℃	+1.6～+3.9℃	
平年並(40%)	+0.7～-0.7℃	+0.9～-0.9℃	+1.4～-1.4℃	+1.4～-1.4℃	+1.1～-1.1℃	+1.5～-1.5℃	
やや低い(20%)	-0.8～-1.9℃	-1.0～-2.3℃	-1.5～-3.7℃	-1.5～-3.6℃	-1.2～-3.0℃	-1.6～-3.9℃	
低い(7.5%)	-2.0～-3.0℃	-2.4～-3.6℃	-3.8～-5.7℃	-3.7～-5.6℃	-3.1～-4.7℃	-4.0～-6.0℃	
極めて低い(2.5%)	-3.1℃～	-3.7℃～	-5.8℃～	-5.7℃～	-4.8℃～	-6.1℃～	